

特別養護老人ホーム柏きらりの風

(柏市・東葛北部圏域)

■ 事業所データ

- ・ サービス種別：介護老人福祉施設
- ・ 所在地：柏市西原2-9-1
- ・ 入居者数：80名（10ユニット）
- ・ 職員数：80名（常勤 52名、非常勤 28名）




■ 取り組みの概要

- ・ 夜間の訪室回数が多く、**夜勤者の身体的・精神的負担が課題**だったため、**見守り支援機器「眠りSCAN」を40台追加導入**した。センサーによる見守りを全室導入し、利用者の状態をタブレット画面上で確認できるようにすることで、これまで必要だった訪室による目視確認を減らし、訪室回数を削減した。加えて、「眠りSCAN」で取得した**睡眠データを分析**し、昼夜逆転傾向のある利用者を顕在化した。そして、当該利用者に対し日中の活動量を増やす支援を行うことで、**睡眠リズムの安定化を図るなど、「ケアの質の向上」**にも取り組んだ。
- ・ また、業務アドバイザーによる伴走支援を通じて、慣例的に実施していた**早番・夜勤者間の対面による申し送り業務を見直し**た。既存の介護記録ソフト「ほのぼのNEXT」の記録機能及び、ビジネスチャット「direct」のチャット機能を活用し、口頭中心の引継ぎからシステムを介した情報共有へと転換することで、申し送りに伴う、**残業時間の削減**を図った。

■ 取り組みのポイント

- ・ **【負担軽減とケアの質向上】** 夜間の見守りに関する身体的・精神的負担軽減を目的として導入した「眠りSCAN」の睡眠データを活用し、利用者の睡眠リズム改善まで踏み込むことで、負担軽減と「ケアの質の向上」を同時に実現した。
- ・ **【記録業務の効率化】** 事業所内のDX委員会だけでは取り組み切れなかったが、伴走支援による第三者の視点を取り入れることで慣例化していた申し送り業務をシステム化でき、残業時間を削減した。

■ なぜ「見守り支援機器」の業務改善に取り組んだのか

 プロジェクトリーダー 岡田さん（副施設長）

夜間巡回を1時間に1回行う中で、入居者の安眠を妨げてしまうことや、深い眠りの状態での排泄介助が拒否につながることを課題と感じていました。入居者一人ひとりの生活リズムや覚醒の兆しに寄り添った支援を行いたいという思いから、全床に眠りSCANを導入しました。

必要なときに必要な支援を行うことで、安心して眠れる環境づくりと、職員の負担軽減の両立を目指しました。



■ 「見守り支援機器」の活用にあたっての課題と工夫した点



DX委員会委員長 遠藤さん

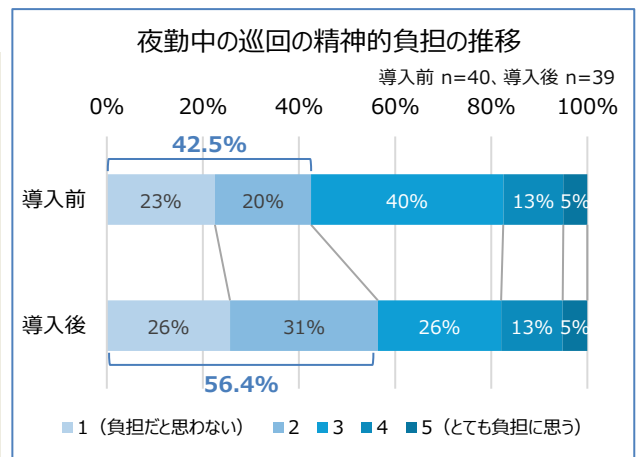
- **【課題1】 ICTが苦手意識のある職員への対応**
 ▶ 操作説明だけでなく、導入理由やメリットを十分に説明することで、興味を持ってもらいました。
- **【課題2】 アラート音が頻繁に鳴ってしまい、本当に必要な通知の埋没**
 ▶ アラート設定を利用者ごとに見直し、必要な通知に絞ることで業務負担の軽減を図りました。また、アラート音を必要に応じて変更することにより、必要な通知が埋もれないように工夫しました。
- **【課題3】 夜間の睡眠・生体データの日中ケアへの活用不足**
 ▶ 夜間の睡眠データや呼吸・心拍データを日中のケアに活用し、生活リズムの改善につなげることで、業務効率化とケアの質向上の両立を実現しました。

■ 数字で見る「業務改善」の成果



成果指標：身体的・精神的負担感
 申し送りのための残業時間

- 「眠りSCAN」の活用により、夜間の巡回に関して精神的負担と感じない職員の割合が42.5% ⇒ **56.4%**へ増加した。
- 既存の「ほのぼのNEXT」「direct」の機能を活用することで、申し送りに関する準備と申し送りに要する時間を一人当たり約**30分/日削減**した。



■ これから「業務改善」に取り組む事業所へのメッセージ



DX委員会委員長 遠藤さん

業務改善やテクノロジー活用は、特別な施設だけが行うものではありません。私たちも、夜勤職員の負担軽減という身近な課題から取り組みを始めました。見守り支援機器の導入により、業務の効率化だけでなく、睡眠データを活用したケアの見直しにつながり、利用者の生活リズムの安定という成果も得られています。

テクノロジーは「人の代わり」ではなく、「人のケアを支えるための道具」です。まずは、小さな課題から、現場に合った形で一步踏み出してみることが、業務改善への第一歩になると考えています。

■ 業務改善の年間スケジュール

| | | | |
|-----|----------------|-----|------------------|
| 6月 | 業務改善の取り組み開始宣言 | 11月 | 「眠りSCAN」を40台追加導入 |
| 7月 | 事業所の課題の洗い出し | 12月 | 業務改善後の業務時間等を測定 |
| 8月 | 導入計画書の作成（～11月） | 1月 | PJチームで取り組みの振り返り |
| 9月 | 介護テクノロジー補助金申請 | 2月 | 事業所全体で取り組みの振り返り |
| 10月 | 業務改善前の業務時間等を測定 | 3月 | 成果発表会で事例報告 |